

● 新入会員 ●

—6月分—

特別会員 1社(1口)

南海化学(株)(1)関西支部

[事業内容]化学工業薬品等の製造、販売に関する事業

地区特別会員 2社(2口)

(株)WEFAM Design(株)(1)東海支部

[事業内容]小規模分散型インフラ(水及び電気等)の研究開発、小規模分散型インフラ(水及び電気等)の製造及び販売、保守

(株)PlantStream(1)関東支部

[事業内容]自動ルーティング機能を搭載したプラント3D CADソフトウェア会社電池の開発、製造、販売

書籍紹介

カーボンニュートラル2050ビジョン

著者：(一財) エネルギー総合工学研究所，横山明彦，坂田興，小野崎正樹，山形浩史，平沼光，金田武司，西山大輔

ページ数：188ページ

発売日：2024/3/26

出版社：エネルギーフォーラム

気候変動枠組条約のパリ協定は、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べ2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑えるよう努力を続けることを目的に掲げている。現時点での気温上昇は1.5°Cに近づきつつあり、気候変動の影響を抑制していくために、2050年までに温室効果ガス排出量を世界全体で正味でゼロにするカーボンニュートラルの実現はおおきな課題となっている。

本書は、エネルギー中長期ビジョンとしてのカーボンニュートラルに向けたシナリオと技術展望、それを実現する社会的なトランジションへの提言の二部構成をとっている。シナリオと技術展望では、カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーモデルを用いた技術および経済的な視点からのシナリオ分析の結果がまず示される。エネルギーシステムを構成する、供給側の再生可能エネルギー、原子力、化石エネルギーとカーボンリサイクル、一次エネルギーを二次エネルギーに転換する水素エネルギーおよび電力システム、エネルギー需要を構成する産業・運輸・民生における技術展望が簡単にまとめられている。

カーボンニュートラルは技術のみで達成されるのではない。その意味では、トランジションへの提言として、次世代電力システム、水素戦略、CCUSおよび火力発電戦略、原子力開発利用について技術面と社会面の両面から詳細に戦略を論じていることは注目に値する。また、エネルギーシステム移行およびグランドデザインについては国以外の利害関係者に着目し、歴史的背景をふまえたカーボンニュートラルの社会受容の重要性を指摘し、さらに技術普及に欠かせないファイナンスに至るまで、網羅的にカバーしていることが大きな特徴となっている。

このように本書は、専門的でありながらも、今世紀中葉までのエネルギーの移行と変革を、その背景や必要なアクションまで含めて総合的に理解できるように工夫されている。カーボンニュートラルに興味のあるビジネス関係者、政策担当者、研究者、学生などを含めた教育関係者など、幅広い読者へ推奨したい。

(エネルギー総合工学研究所 黒沢厚志)



